

A-1 学校研究の概要

本校では、「多様なかかわりの中で 考え 動き出す子」をめざして、実践研究を積み重ねてきている。

そのために以下の2点を重点として学校研究に取り組んでいる。

1. ねらいと学習問題を明確にする。
2. 見通しが持てるように工夫する。

1. 「ねらいと学習課題を明確にする」とは

この単元を通してどういう力をつけたいのか、何を学び取らせたいのかを明確にし、そのねらいに迫ることができるような学習課題を設定する。

2. 「見通しが持てるように工夫する」とは

授業の中で動き出せない（動き出せなくなった）子が、ゴールに向かって動き出せるようになる（「今何をするのか」や「道筋や方法」などがわかる）ための、教師のかかわり方を工夫する。

また、教科や総合的な学習の中で、つけたい力を意識して「多様なかかわりの場」を位置づけていくこととしている。

「多様な人・もの・事象」と関わる機会を意識して設定していくことで

- ・多様なものに対応していける強さ・柔軟さ
- ・異なるものを受け入れる寛容
- ・ものに感動し、新たなものにチャレンジしていこうとする意欲

をはぐくんでいくものである。

本実践では、台湾という遠い地の同年代の子どもたちのかかわりが大きい。「かかわる」とは直接会うことだけではない。その人たちの作品や写真との出会いもかかわりであり、そこから汲み取れる考えや思いとかかわることも大切な「かかわり」ととらえている。また、未来への同じ願いを持つ仲間とかかわりながら学びを進めること。そして考え、動き出すために、見通しを持てるよう展開を滑らかにするための教師間の打ち合わせ。常に子どもとともにゴールを見据えて、そこに向かって、今していることはどの部分で、どこに向かっているか。このあとの何につながる今日なのかを明確に示すことで、意識を持続させ動き続けることになっていった。

総合のように分岐して学習が進む場合、特に一人ひとりが「今日は〇〇をするぞ」「今日は〇〇まではっきりしたよ。」「次の時間は〇〇の続きをしてから、△△について□□をつかって調べます。」というはっきりした計画を持たせる指導と、行き詰った子の行きたい方向へほのかな灯りを照らすことが教師の役割であると考えている。